

東方 Fanbook

# R 咲

咲夜への罰 下



For Adult Only



東方 Fanbook

**R0味**

味夜への罰 下

紅魔館には沢山のメイド達がお  
それを取りまとめるのが私、咲夜の役目。  
だからメイド達には安心して働けるように  
失態などの責任はすべて私が取ります。

それがメイド長の役目だから……

大丈夫よ……  
ケガはない？

申し訳ありません  
お嬢様!!

これだけ誤って  
いることでは……

そして今回のメイド達の失態も私の責任。  
メイド達に責任はありません。  
だから私が罰を受けるのも当然のこと  
そしてそれはこれからも変わらないことです……

咲夜様!!

に……人間を!  
食料用の人間を  
逃してしまいました(汗)

えっ?  
ど……どこで

南館の食料庫です

ただ……  
今回の失態は重大なミス。  
その罰は想像を絶するもので  
それは私が性奴隷となり償うことでした。  
それができなければ  
お嬢様のお許しが頂けないのはもちろん  
お嬢様との別れを意味するはず……

それだけは……失いたくない……  
私はお嬢様が全てだから……

だから……お嬢様のためなら  
何でもします……!!  
嫌われたくないから  
何だってします……!!

それがたとえ

自らの意思やプライドに  
反するような

過酷な言いつけだったとしても……



ズズズ

ヒヒヒ

ズズズ

ズズズ

ズズズ  
ズズズ  
ズズズ

ズズズ

ズズズ

ズズズ

ズズズ

ズズズ

ズズズ



う...あ...  
あ

あ

ニッ  
ニッ

あ



アッ  
アッ

あ  
あ  
あ

アッ  
アッ  
アッ



ぬるにゅ...  
ぬるにゅ

だ：ダメエツ抜いて...  
大きすぎるッ

ズッ

ズッ  
ズッ

ズッ



あッ!?

あッ  
あッ  
あッ

ズッ  
ズッ  
ズッ

あッ  
あッ  
あッ



ふふ♪  
気持ち良さそうだね

あ  
あ  
あ



へえ...  
パチユリー様の  
用意した触手  
凄いな!

女の蜜に  
反応してどどん  
形を変えてるのか...

ズッ  
ズッ

ズッ  
ズッ

ズッ







罰が始まったあの日：  
お嬢様は名も知らない男に  
私を犯し性奴隷へと  
調教するように命じた。

男はそれを良いことに  
調教具や触手、そして  
いきり立った肉棒で  
私を辱め犯した。



何度も何度も  
味わされる苦痛も  
次第に快樂へと変わり



意志とは逆に  
体がその快樂を  
求めようとし始める…





そんな私をさらに  
男は攻めたて  
快樂を与えようとする……



憎いはずの男なのに  
少しでも気を許すと  
快樂を与えてくれる  
最愛の人に見えてくるのは  
なぜ……



この先どうなって  
しまうのか……  
……怖い……



一体  
自分が……



私はお嬢様としか  
愛し合いたくない  
：はず

普通の行為でしか  
感じない…はず

はず…



なの……！……





もう何度目の  
絶頂かな♪

…あぁあ

ブルブル

ブル

ブルブル



もう気付いて  
いるんでしょ？

本当は  
お嬢様の為じゃなく  
自分から求めていること！

私はお嬢様の望む  
性奴隷になるために…

ちっ…違う…ッ

それなのにまだ  
ココは欲してる…♪  
本当…淫乱だね



でも遅かれ  
早かれ分かるよ

本当の  
自分をね…

ま…いいよ…  
ただ僕は咲夜さんの  
耐えてる姿が見たく無いだけ…



そんな訳…

ッ

ッ



ふん...

お兄ちゃん...  
最近フランの所に  
来てくれないって思ったら  
咲夜が一人じめしてたんだア



フ...  
フラン様...!

クソ



まあ  
フランも一緒に  
楽しむといいわ

でもちゃんと  
レミイの言いつけ  
守ってね

せっかく  
来たんだから  
いっぱい遊ぼうよ



もお...  
目くじら立てない  
約束でしょ...

ううう  
だってええっ  
触手の調子はどう?

すす



ルン  
ルン



はいはい

パチュ  
この  
触手ツ！

ガ



えへへっ♡

咲夜をいっばい  
触手チンポで犯せば  
良いんだよね？  
そしたらお兄ちゃん  
フランと遊んでくれるんだよね？



きゃっ!!



なのになの  
咲夜ばかり  
ズルイよ!



私だって  
お兄ちゃんと  
一緒に遊びたかったん  
だからね



でも今  
気持ちよくしてくれたら  
許してあげる

だめからほらッ  
舐めてよ

ドキン・ドキン...

アレを  
入れられたら  
私.....

お.....ち  
んちん.....



僕が代わりに  
相手をしますから

別に嫌なら無理して  
奉仕しなくても  
いいですよ  
咲夜さん

えッ本当お♪  
フランどっちでも  
いいよー



?



私が!

私が奉仕します!

わ??



し:しますッ!  
私:が:ッ









い…嫌…

もっと「奉仕させて」…

もっとおちんぽ  
しゃぶりたいの！

んっ

あーあーあー



私は…  
お嬢様…の  
ために…

こ…こんなの  
私じゃない…

えっ…私…  
今なにを言ってる…

ニで…

チラ…

んっ!!

あー!!





ち、ちがう！  
そんなはず無い！

えへへ  
今度は  
フランの番だよ♡



中で小さな魚が  
踊り狂うような…  
…かき…乱されるう  
…ツ…!?



あ：ああ  
スゴイツ！何コレ…  
今までこんな  
こんなおちんぼ…  
アッ+



んやゝあ  
咲夜の中...

ニユルツとして  
気持ちイイ♡



あぁ...

はあ



はふ♡

んっ



んく

あっっ

こあっ



あぁ...♡  
き...気持ちいい♡

あッ

んっ

アソコが  
とろけそう...♡

あッ





ふ…ひゃ…もお  
限…界…つらよお

気持ち良くて…  
白の…はひ  
ビュル…したイッ

ああ…わらひ…も  
もお…うああ



もおつ…  
らめ…ッれふ  
う…ッ

わた…し…



あれだけののに  
まだこんなに  
濡らして…

咲夜さん  
どれだけ  
淫乱なんですか？

ほら見てよ

ちよつと触った  
だけで蜜がこんなに…

こんなの見せられたら  
僕もまた興奮してきたよ



どう？  
部屋いっぱい  
このニオイが充満して  
ムセそうだよね？

ああ……  
おちんちん……♡

でもそれが  
たまらなくて……

すんげー……

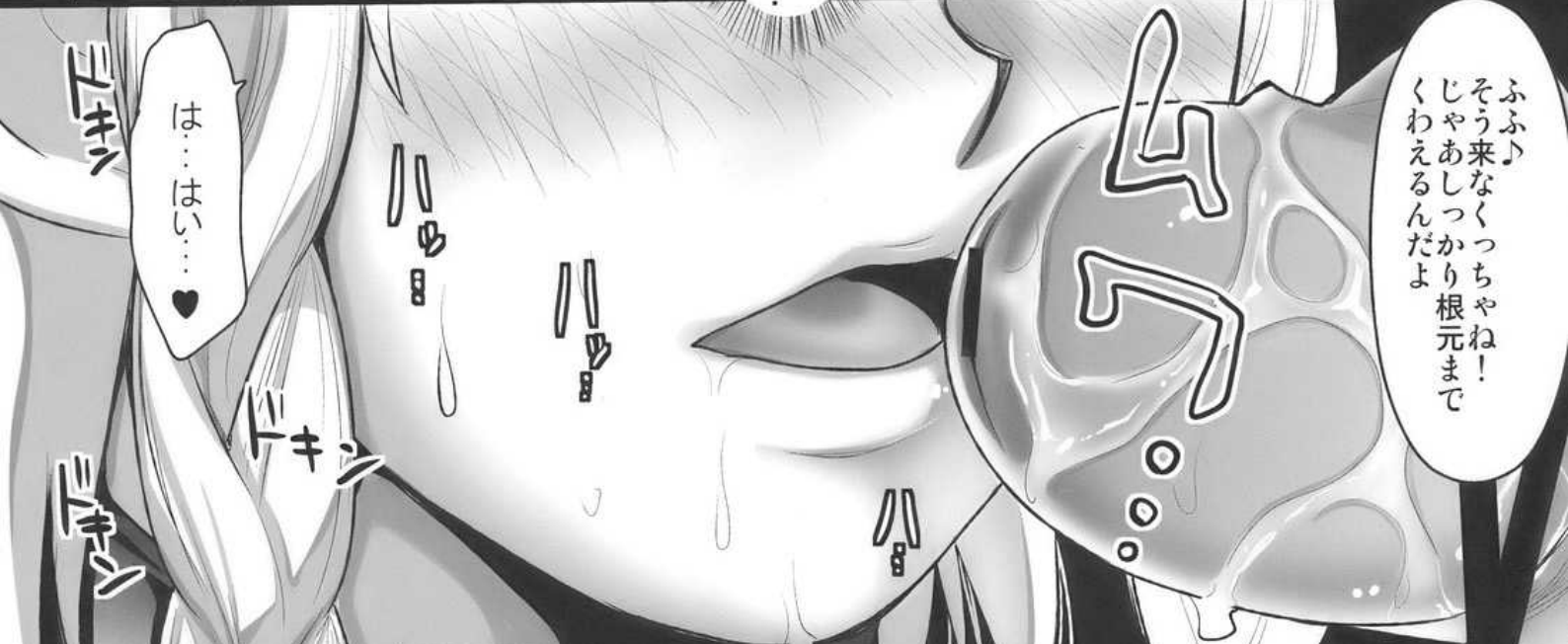


欲しい……  
です……  
お願いします  
ください……



もう……  
限界だから……

お願い……  
もう私にそれを  
見せないで



ふふ♪  
そう来なくっちゃね！  
じゃあしつかり根元まで  
くわえるんだよ

は……はい……♡

ムキムキ

ドキン

ハッ

ハッ

ハッ











私は  
お嬢様に忠実な  
性奴隷になりたかった  
だけなの……

なのに……

今の私は……

ただ自分の快楽に酔ってるだけの  
無様で淫乱な人間じゃない……

こんな私を……  
お嬢様が許してくれるはずが  
ない……！

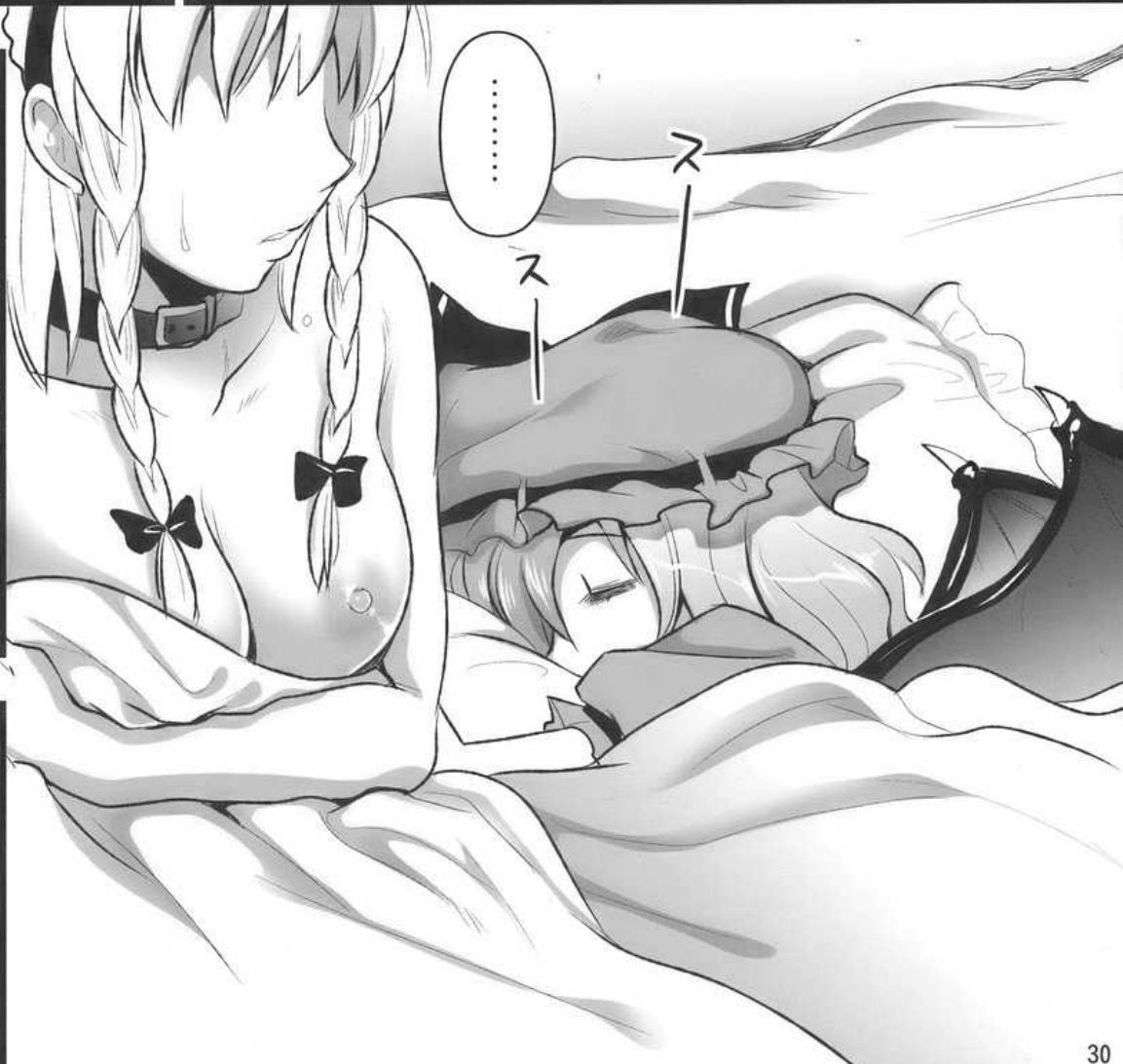
私……私……  
お嬢様に……

嫌われる……？

お嬢様に……

嫌われる……！

いや……そんなの……  
いや……！





待ちくたびれたわ



咲夜がなかなか起きないから...



パチュも楽しんでたみたいだね

それにしてもあの男とフランに派手に調教されたみたいね



.....



体は大丈夫...? : : : : : 咲夜



私：罰と分かっていながら  
自分の快樂のために…

あの男を求め…

お嬢様の事…も  
見失い…かけ…  
て…ツ

そう……

スッ

フッ

フッ

フッ

ヒッ

ヒッ

ヒッ

?

ヒッ

咲夜から私と同じ快樂を  
求めるニオイがするからよ…

ねえ…咲夜…?  
今日は何だか体が凄く  
火照っているの

どうしてか  
わかる?

ヒッ

ヒッ



今の咲夜なら  
そのニオイが  
感じ取れるでしょう？

えっ？



まあどちらにせよ  
結果は同じ事

それとも本当に自分の  
本質に気付いて  
いなかったのかしら？

あ…あ…  
この厭らしい  
ニオイは…



私の…本質…？

ふふ…まだ  
はつきり理解  
出来てないようね

いらっしやい咲夜…



でも咲夜は私のことを  
思うがあまり本当の自分を  
受け入れられないでいる…

いえ…正確に言えば  
気付いているけど  
目をそむけていた  
そんな所かしら…

私と何度も肌を合わせたんだもの  
どんなに隠しても  
私にはお見通しよ…？





言葉がいつになく  
優しい...

ん...ふんふん

ふんふん



お嬢様...  
こんな私を...  
許すか...  
ただけるの...?

あ...あ...あ...

おダ...  
嬢様あ...  
ッ



また随分と  
感じやすくな  
ったわね♡

嬉しいわ♪

ふん

ふん

ふんふん

ふんふん

ふんふん



お嬢様…  
どうしてこんなに  
いいニオイが  
するの…♡

好きにして  
良いわよ



ああ…ああ…  
Hなニオイで  
たまらない

ドキ  
ドキ  
ドキ

おまんこ…♡

ああ…お嬢様の…



うっ…んん♡  
そんなに  
興奮しちゃって…  
本当に淫乱な子に  
なったのね

も…もっ  
我慢できない…ツ♡

うれしいわ  
咲夜…♡



お嬢様…♡

よかった…



それに  
お嬢様が  
喜んで  
くれる…



!?



咲夜…

咲夜のが  
いっぱい……♡

うふふ



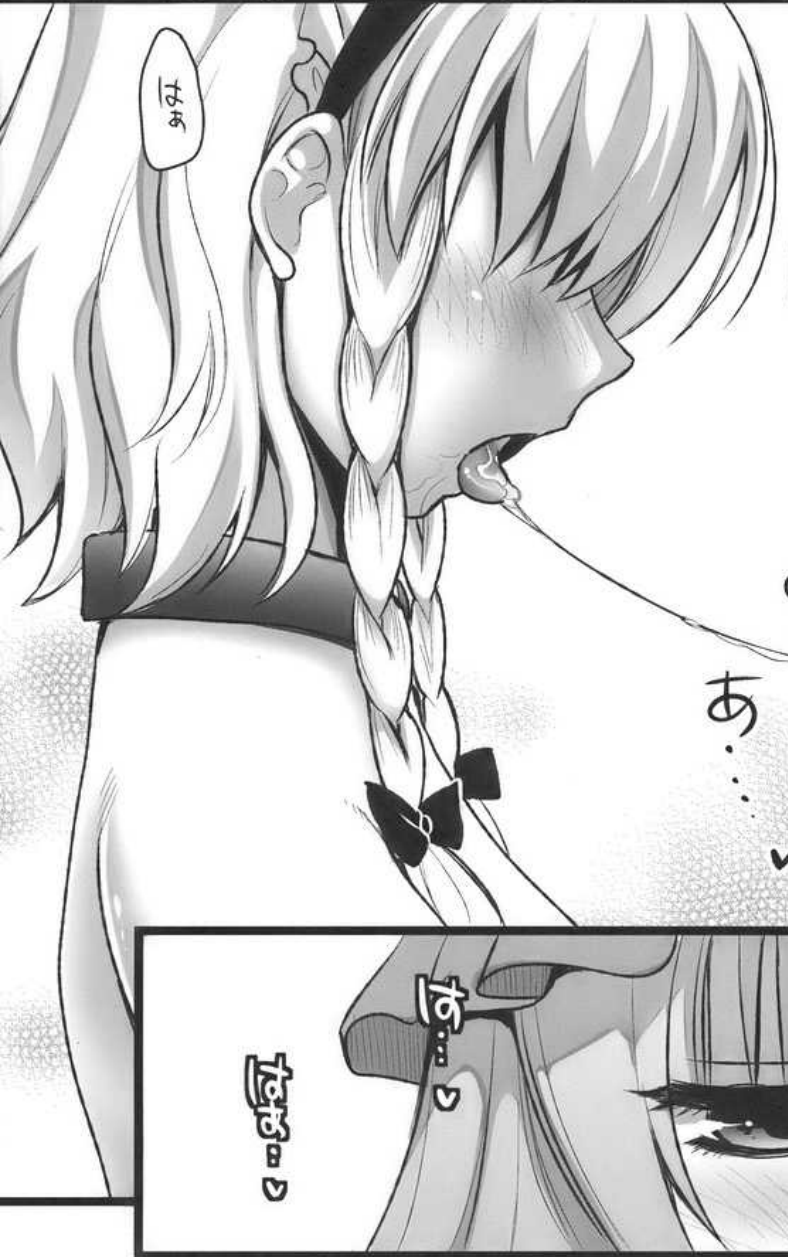
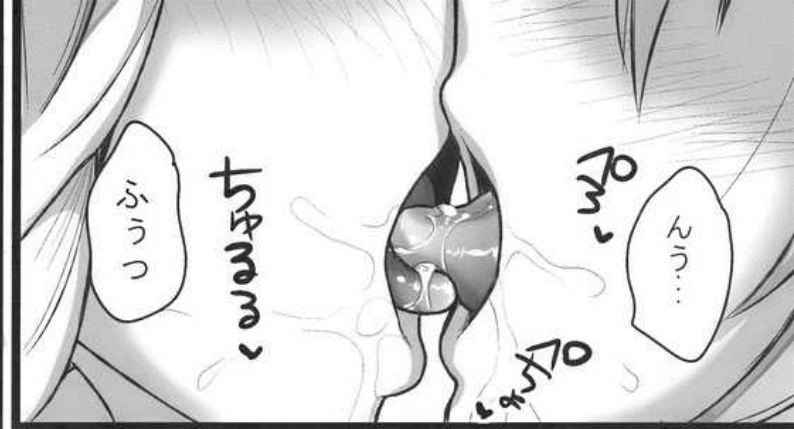
……お嬢様……

……ああ……私……



とっても  
美味しいわ♡





嫌われて  
なかった...





うふふ…♡  
これでやっと咲夜と  
快樂の世界へ  
いけるのね…

さあ…

大丈夫よ  
私が用意した  
おもちや達

お嬢様…？  
これは…？

2人で  
墮ちましょう  
咲夜…♡

大丈夫よほら  
力を抜きなさい

ああお嬢様…  
あの日々は罰ではなかったのですね  
全てはお嬢様が私の為にくれた事  
だった…と…

あ…

えッ…  
そんなにいきり立った  
太いの…



ズズズッ!

ああッ…  
おなか…

うああッ!  
おなかいっぱい!  
…ああア!

うふふ♪  
大きな声  
出しちゃって…

ブルブルッ!

ブルブルッ!

ブルブルッ!



かまわず  
臭くてぶつといおちんほ  
もっと突いてやって  
ちようだい♥

はああ

んふふ♥いきなり  
2穴責められて  
感じるなんて  
淫乱ね咲夜っ

あ…はああつ…  
おじよ…様アつ  
おちんぽ凄いですう♥

お嬢様はずつと私の事を  
一番に考えてくれていた…  
この同じ気持ちをはかち合える日を  
待ち望んでいてくれたなんて…

あんっ

ああ  
スゴイ臭い…

私もう…  
この快楽を否定する必要は  
ないのですね…  
お嬢様と一緒に堕ちて行けるの  
ですわね…

今日は特別  
濃いわねえ  
アロアロ♥



咲夜も私と同じ快樂に  
目覚めるんだから  
もっと激しく  
犯してあげて！

それにしても  
はしたない声に音ね！  
たまらないわね！

ほらほら  
休んでる暇は  
ないわよ♪

は...

はア

あ...

あ...

あ...

あ...

あ...

あ...

あ...

あ...

あ...

あ...

あ...

あ...

あ...

あ...





んは…んあ

んうううう  
あたま変になっちやうう

うあ…

スゴ…イ  
のお…  
感じすぎちやう

ううん  
ぞくぞく



とめつて…ええ  
ええあ…あん

あアアア

んぐんぐ

んぐ!



淫乱だなー

まさか  
こんなに  
エロいとは

ふへへ…

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ



んおおああああ

クッ  
クッ  
クッ

グッ  
グッ  
グッ

グッ  
グッ  
グッ



うっ  
こりや最高だ!

次は俺が  
するぞツ!

グッ  
グッ  
グッ

グッ  
グッ  
グッ



んッあはアああ

ほら!  
どうだツ!

グッ  
グッ  
グッ

グッ  
グッ  
グッ

クッ  
クッ  
クッ

ああらめ...  
おちんほい  
とまらない  
...

そうよ……♡  
咲夜……もう大丈夫♡

あなたは  
立派な性奴隷になったわ♡

これで  
わちあえる……  
ずっとこの日を  
待っていたの♡

咲夜と一緒に  
この快楽を  
わちあえる日を……♡

あ……あ……  
一緒に……♡





あんなツ♥

あッああんん  
やああはあああ♥

ニムッ

ニムッ

ニムッ

ニムッ

ニムッ

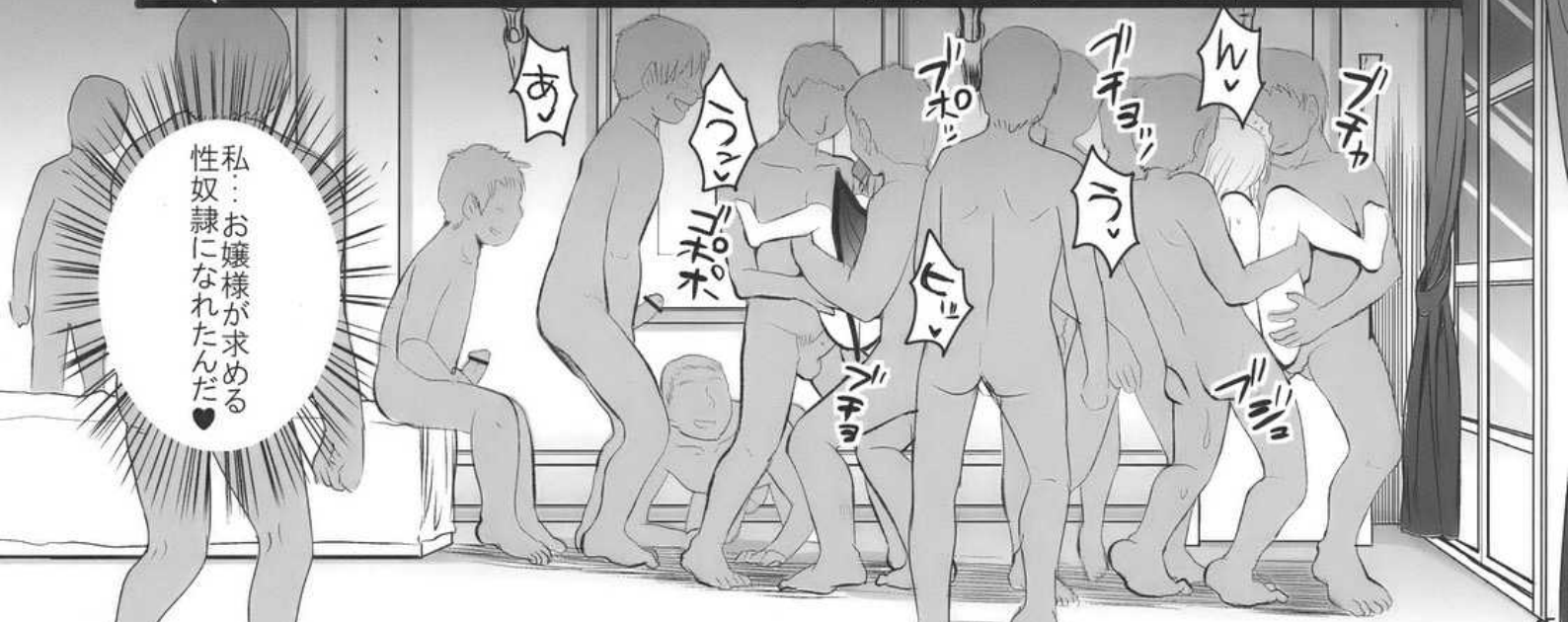
ニムッ



お嬢様ものニオイが  
好きなんだ...  
お嬢様と一緒に同じ  
快楽を...♥

くああッ  
クササキの  
...♥

あ...じあ  
おじあ...れ...  
まあ...♥



私：お嬢様が求める  
性奴隷になれたんだ♥

あ

ニムッ

ニムッ

ニムッ

ニムッ

ニムッ

ニムッ

ニムッ



はは ちんぽを  
ねじこまれた  
お嬢様なんて  
ただの性奴隷だな

性…っ奴隷に  
してエ  
♥



お前は俺のちんぽを  
くわえてる時は  
俺の性処理機だ！

ぐふふ…  
いいか！

ああ…はい♥  
咲夜はッ あなた様の  
性処理機れふう♥











はい…でも頂いた薬が効いたようです

大丈夫？  
レミイが満足するまで一緒に居たんでしょう？

そう……



……そうですか……



あの男なら生きてるわよ

レミイが約束通り自由にしたわ



……



そうですか

フッフ

クネ……



ただフランに  
気に入られちゃった  
みたい……  
…気の毒な人間ね……



あんな  
回りくどい事しなくても  
想いは伝わるのに...

それにしてもレミイは  
ほんと不器用ね



フワッ


そんなお嬢様が私...



でも...

トッ...

大好きなんです



お嬢様と  
あつになれた  
あの時間

私は真の意味で  
お嬢様に全てを  
捧げ仕えると…  
そう心に誓いました

この命が  
果てるまで

<あとがき>

はじめまして、そしてこんにちわ! 小島紗です。

この度はお手に取ってくれてありがとうございます♪

上編に続き今回もなかなか…お話をまとめるのに苦労してしまって、結局総ページ数が56pと言う我がサークル過去最大のP数になってしまいました(´ρ`)

そして上と下で内容がチグハグになってしまい、読み手の皆さんには不満が残る作品になってしまったのではと…反省だらけですが、どうだったでしょうか…(滝汗)  
なにはともあれ、咲夜さんとお嬢様にはどうしても幸せになって欲しかったので色んな変態行為の末に結ばれる…というステキな結末にしてみました!!  
ほら!愛のある変態は正義でしょう!w …そういうことにしておいて下さいw

あ、でも陵辱や調教といっても、お互いの信頼関係があってこそそのプレイだと思っているので、知らない人とかにしちゃダメですよw  
まあそれを一番強く伝えたいのは、このR咲の内容を考えてくれた友人のSっ子ちゃんだったりするんだけどねwww

それではまた次にお会いできること楽しみにしてます(\*^-^)/

<奥付>

発行 ユリルラリカ

発効日 2010年8月15日

発行者 小島紗

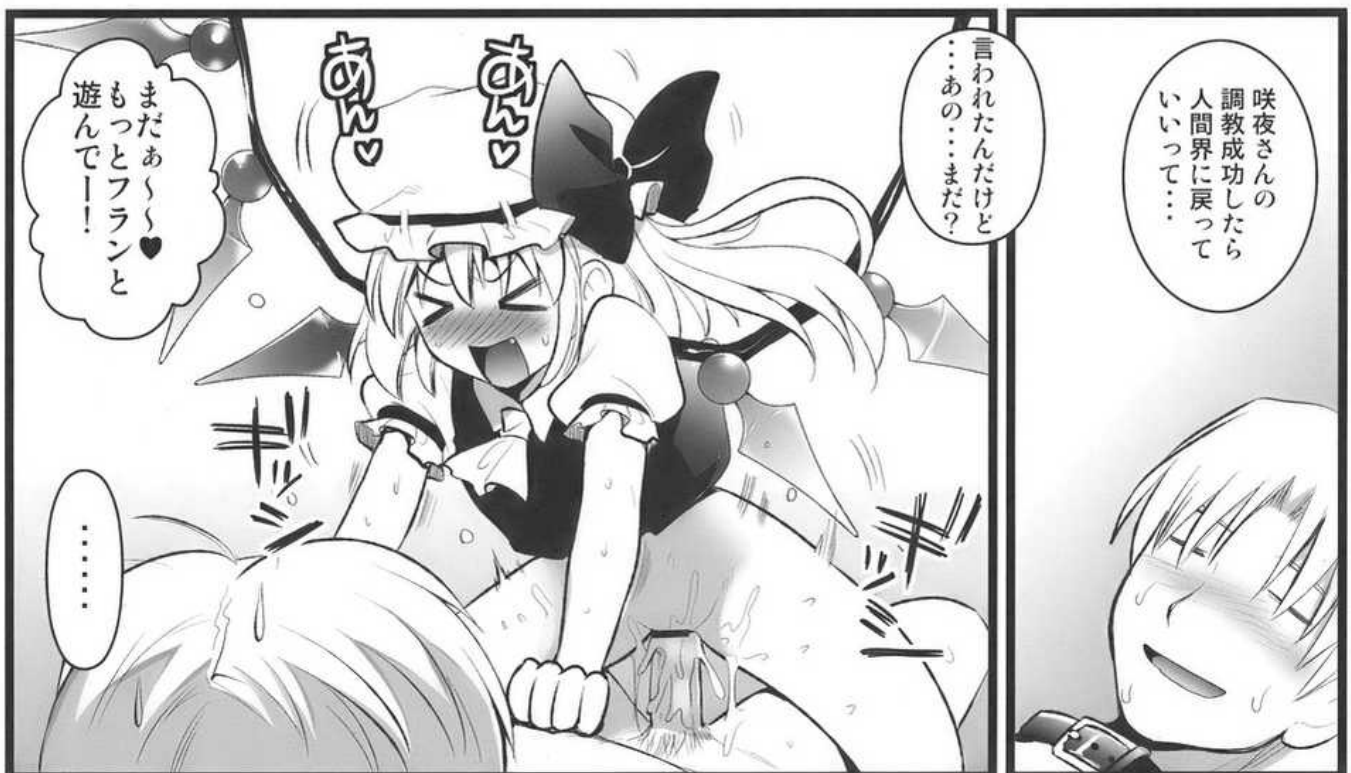
連絡先 sy\_kozima\_17@yahoo.co.jp

HP <http://yuriru-rarika.nyanta.jp>

印刷 ねこのしっぽ

この本は成人向けです。18歳未満の購入・閲覧を禁止します。

この本の一部または全てを無断で転載・流用する事を禁止します。





アールサウ@ユリルリカ